

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和4年1月】

■調査概要（データ対象期間：令和4年1月1日～1月31日）

○調査期間：令和4年1月27日～令和4年2月18日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業19企業、製造業19企業、卸売業10企業、小売業23企業

飲食業16企業、サービス業43企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計130企業>

○調査項目：1月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DI共にマイナス幅の拡大

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲2.4)よりマイナス幅が3.0ポイント拡大し、▲5.4となった。業種別では、小売業はプラス幅が縮小した。飲食業はプラスからマイナスになり、卸売業は0からプラスになった。サービス業は0からマイナスになった。製造業はマイナス幅が縮小し、建設業はマイナス幅が拡大した。

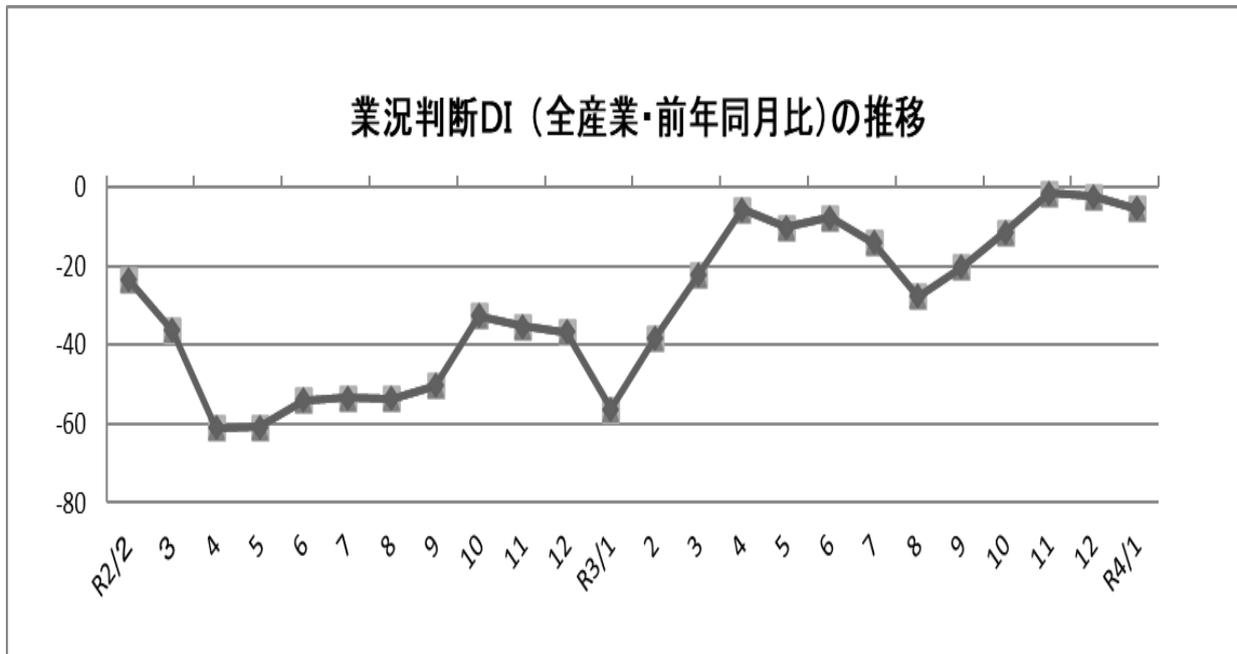
○全産業合計の水準DIは、前月(▲16.9)よりマイナス幅が15.4ポイント拡大し、▲32.3となった。業種別では、小売業は0からマイナスになり、卸売業がマイナスからプラスになった。サービス業、建設業、製造業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	20.8 (23.8)	53.0 (50.0)	26.2 (26.2)	▲ 5.4 (▲ 2.4)	12.3 (15.4)	43.1 (52.3)	44.6 (32.3)	▲ 32.3 (▲ 16.9)
建設業	0.0 (0.0)	78.9 (94.4)	21.1 (5.6)	▲ 21.1 (▲ 5.6)	0.0 (0.0)	78.9 (83.3)	21.1 (16.7)	▲ 21.1 (▲ 16.7)
製造業	31.6 (25.0)	31.6 (30.0)	36.8 (45.0)	▲ 5.2 (▲ 20.0)	15.8 (20.0)	26.3 (55.0)	57.9 (25.0)	▲ 42.1 (▲ 5.0)
卸売業	60.0 (33.3)	30.0 (33.4)	10.0 (33.3)	50.0 (0.0)	30.0 (8.3)	50.0 (58.4)	20.0 (33.3)	10.0 (▲ 25.0)
小売業	21.7 (31.8)	60.9 (50.0)	17.4 (18.2)	4.3 (13.6)	17.4 (31.8)	34.8 (36.4)	47.8 (31.8)	▲ 30.4 (0.0)
飲食業	6.3 (44.4)	37.4 (27.8)	56.3 (27.8)	▲ 50.0 (16.6)	0.0 (16.7)	25.0 (44.4)	75.0 (38.9)	▲ 75.0 (▲ 22.2)
サービス業	20.9 (17.5)	58.2 (55.0)	20.9 (27.5)	0.0 (▲ 10.0)	14.0 (12.5)	44.1 (47.5)	41.9 (40.0)	▲ 27.9 (▲ 27.5)

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計

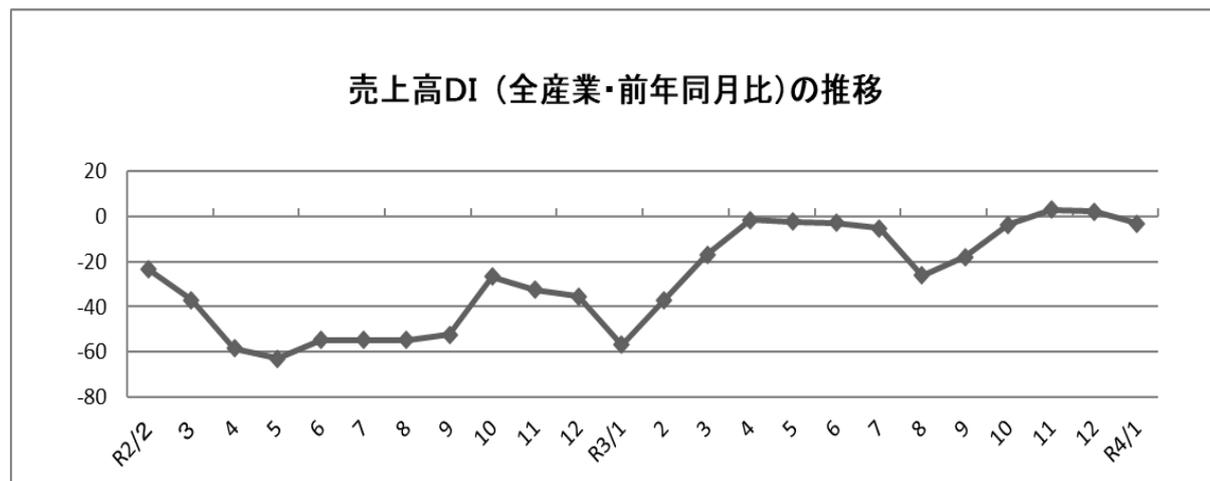


2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月(2.3)よりプラス幅が5.4ポイント縮小して、▲3.1となった。業種別に見ると、卸売業はプラス幅が拡大し、小売業はプラス幅が縮小した。飲食業はプラスからマイナスに転じ、製造業はマイナスからプラスに転じた。サービス業はマイナスから0になり、建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
全体	▲57.0	▲37.0	▲16.8	▲1.4	▲2.2	▲2.9	▲5.1	▲26.1	▲17.9	▲3.5	3.0	2.3	▲3.1
建設業	▲47.4	▲20.0	▲30.0	▲30.0	▲33.4	▲18.2	▲26.3	▲25.0	22.2	▲4.5	15.8	▲5.5	▲15.8
製造業	▲68.4	▲36.3	▲27.3	▲8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲5.2	▲5.0	10.5
卸売業	▲58.3	▲41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲10.0	▲25.0	0.0	7.7	9.1	8.3	40.0
小売業	▲38.5	▲8.4	▲11.1	3.6	▲8.3	▲16.7	▲13.6	▲48.2	▲45.9	20.9	13.0	9.1	4.4
飲食業	▲94.4	▲81.2	▲57.9	▲18.7	▲31.3	▲10.0	▲25.0	▲82.4	▲61.1	▲17.6	5.3	16.6	▲50.0
サービス業	▲51.3	▲43.2	▲2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5	▲20.5	▲7.1	▲2.5	0.0

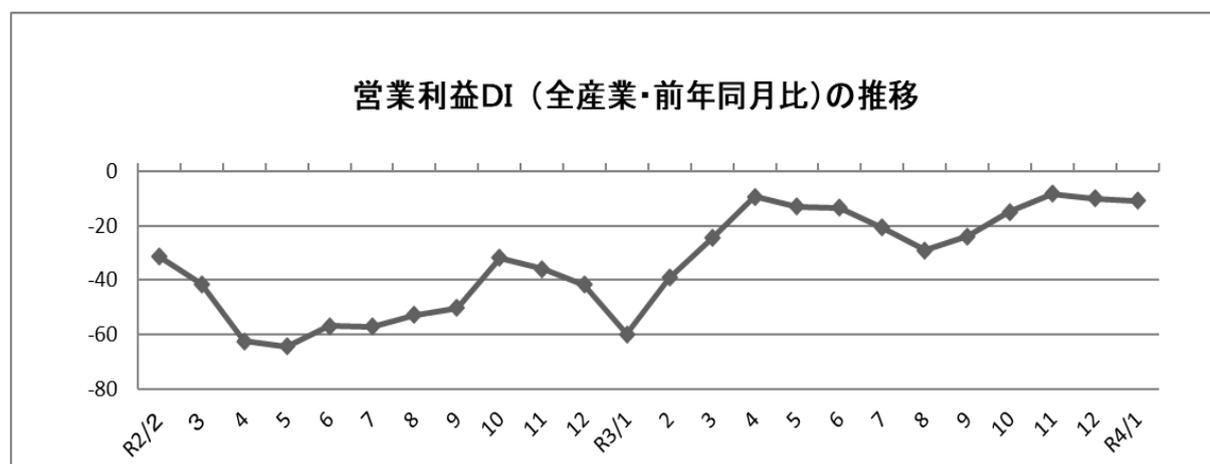


3. 営業利益DI（前年同月比）

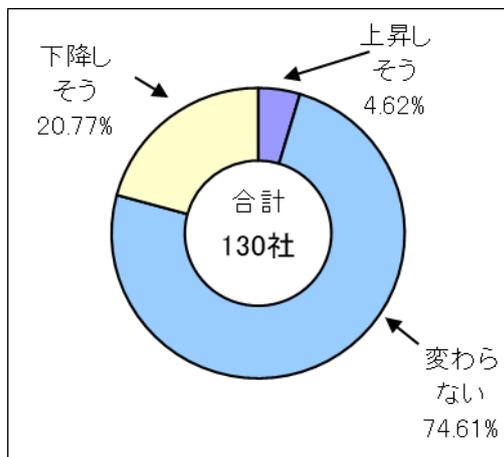
○全産業合計の営業利益DIは、前月(▲10.0)よりマイナス幅が0.8ポイント拡大して、▲10.8となった。業種別に見ると、飲食業はプラスからマイナスになった。卸売業は0からプラスに転じ、小売業は0のまま横ばいだった。製造業、建設業、サービス業はマイナス幅が縮小した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
全体	▲60.0	▲39.2	▲24.5	▲9.3	▲13.0	▲13.5	▲20.8	▲29.0	▲23.9	▲15.0	▲8.3	▲10.0	▲10.8
建設業	▲47.4	▲30.0	▲35.0	▲40.0	▲33.3	▲18.2	▲36.8	▲30.0	5.6	▲22.7	▲5.2	▲27.8	▲21.0
製造業	▲73.6	▲31.8	▲31.9	▲17.4	4.2	▲5.0	5.0	4.5	▲4.5	▲20.0	▲15.7	▲35.0	▲10.6
卸売業	▲58.3	▲33.4	7.7	16.7	0.0	▲7.7	▲20.0	▲16.7	0.0	7.7	▲9.1	0.0	30.0
小売業	▲46.2	▲25.0	▲22.2	0.0	▲12.5	▲25.0	▲27.3	▲37.0	▲50.0	4.2	4.3	0.0	0.0
飲食業	▲94.4	▲81.2	▲52.6	▲25.0	▲43.7	▲15.0	▲35.0	▲82.4	▲66.7	▲29.4	▲21.0	16.6	▲56.2
サービス業	▲53.7	▲40.9	▲14.3	2.4	▲4.5	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0	▲20.4	▲7.1	▲10.0	▲4.7

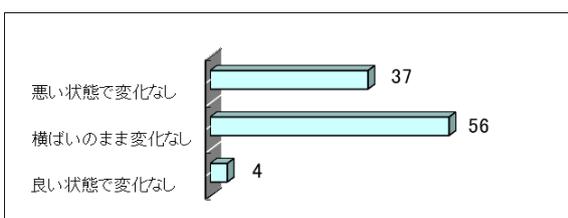


◇ 向こう3カ月の見通し ◇



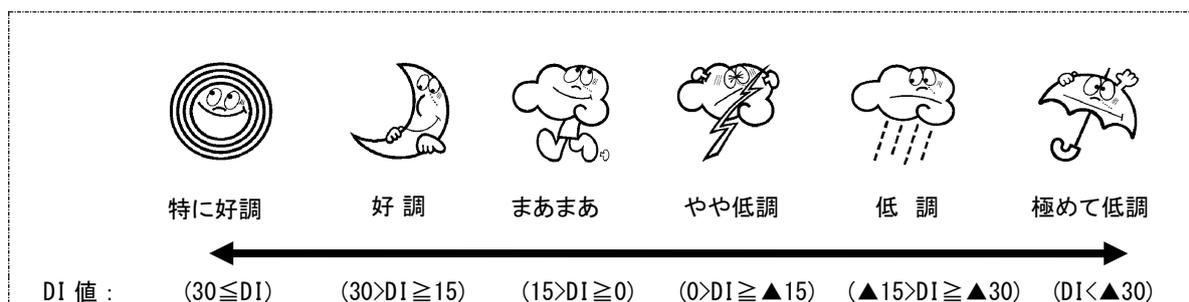
○令和4年2月～令和4年4月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ1.54ポイント上昇し4.62%、「下降しそう」が3.08ポイント減少し20.77%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲15.8)、製造業(▲15.8)、卸売業(0.0)、小売業(4.3)、飲食業(▲43.8)、サービス業(▲20.9)であった。

- ➡「上昇しそう」では「災害復旧工事の発注があるため」(建設業)「繁忙期を迎えるため」「3月に受注が見込めるため」(製造業)といった声が寄せられた。また「季節的要因があるため」といった声が多数寄せられた。
- ➡「変わらない」では「長期のプロジェクトに参加しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。
- ➡「下降しそう」では「材料費高騰により外注加工費までもが上昇しているため」(製造業)「季節的要因のため」「寒さの影響があるため」「職業訓練受講者数が減少しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「新型コロナウイルス感染症の影響があるため」「オミクロン株の影響があるため」といった声が多数寄せられた。

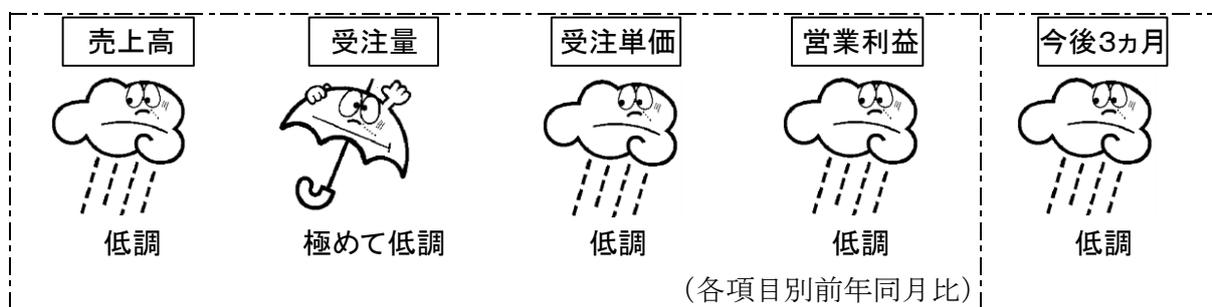


業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
売上高	▲ 47.4	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3	▲ 25.0	22.2	▲ 4.5	15.8	▲ 5.5	▲ 15.8
受注量	▲ 31.5	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 45.0	▲ 28.5	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 5.3	▲ 38.9	▲ 31.5
受注単価	▲ 15.8	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 15.8	▲ 10.0	▲ 5.6	▲ 9.1	5.3	▲ 11.1	▲ 15.8
営業利益	▲ 47.4	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 30.0	5.6	▲ 22.7	▲ 5.2	▲ 27.8	▲ 21.0
見通し	10.5	0.0	▲ 20.0	▲ 5.0	14.2	4.5	0.0	5.0	11.1	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 5.5	▲ 15.8

<経営者の目・見方・e t c >

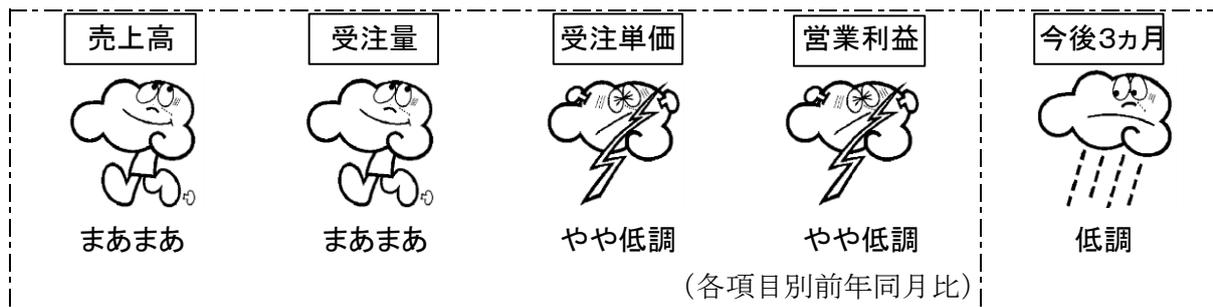
鉄工

・家族が新型コロナウイルス感染症にかかり濃厚接触者になったなど、直接的ではない影響が出てきている。直接的な対策ばかりではなく、間接的な周囲の人達へのしっかりとした対応を政府や自治体には期待したい。

土木工事

・資材の納入が遅れてきている。災害復旧工事が売り上げをカバーしている感がある。

2. 製造業



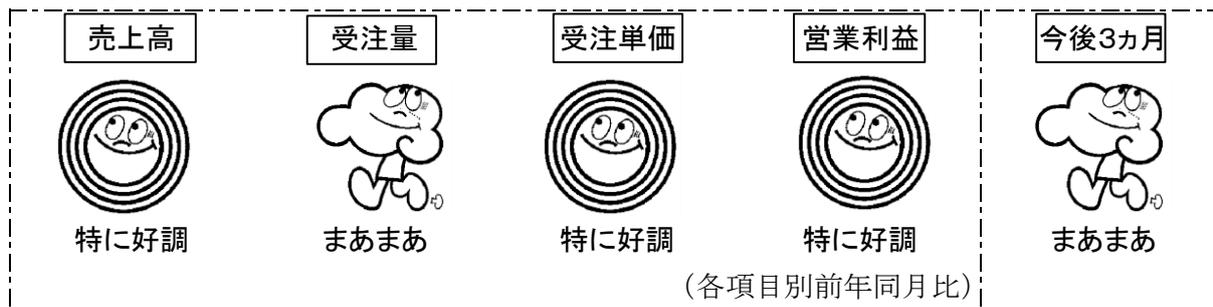
【項目別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
売上高	▲ 68.4	▲ 36.3	▲ 27.3	▲ 8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 5.0	10.5
受注量	▲ 57.9	▲ 31.8	▲ 13.7	▲ 8.7	8.3	25.0	25.0	9.1	4.6	10.0	▲ 5.2	▲ 10.0	5.2
受注単価	▲ 21.1	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	5.0	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	5.0	5.3	▲ 5.0	▲ 10.5
営業利益	▲ 73.6	▲ 31.8	▲ 31.9	▲ 17.4	4.2	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5	▲ 20.0	▲ 15.7	▲ 35.0	▲ 10.6
見通し	15.8	18.2	4.5	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 15.8

<経営者の目・見方・etc>

- | | |
|----------|--|
| 精密機械 | ・部品の不足と値上がりが激しく、構造的な問題で厳しい状況となっている。 |
| 精密機器組立 | ・相変わらず部品の入荷状況が良くない。厳しい経営状況が続いている。 |
| 小型情報機器組立 | ・年度末の人流を見ると減る一方であり、大変な時期である。 |
| 金属塗装 | ・昨年比だと上昇しているがそこまで回復はしていない。親会社も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、受注が減っている。材料の高騰もあり採算を圧迫している。 |
| 印刷 | ・日本印刷産業連合会の藤森会長が首相官邸で行われた「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化会議」に出席し、現状の受注側の問題として、諸資材やエネルギーのコストの価格上昇の影響を強く受けており、顧客への価格転嫁に苦慮していること、さらに官公需の入札に際しては、諸資材価格の上昇を反映させた適切な予定価格の設定と、自治体における最低制限価格制度の導入を要請した。 |
| 食料・飲料 | ・原材料価格の値上げ要請が多い。 |
| 豆腐 | ・原材料の高騰を販売価格に転嫁できず、利益が減少している。 |
| 清酒製造業 | ・昨年同時期と比べると売上は良くなっている。県外のお客様の減少は見られない。 |

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
売上高	▲ 58.3	▲ 41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	7.7	9.1	8.3	40.0
販売客数	▲ 33.3	▲ 33.3	7.7	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 25.0	7.7	9.1	▲ 16.7	10.0
販売客単価	▲ 33.3	▲ 41.7	15.4	8.4	30.0	15.4	10.0	▲ 8.3	0.0	23.1	36.4	8.3	40.0
営業利益	▲ 58.3	▲ 33.4	7.7	16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0	7.7	▲ 9.1	0.0	30.0
見通し	8.4	25.0	7.7	▲ 16.7	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 30.0	▲ 16.7	16.7	7.7	▲ 9.1	▲ 25.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

青果

・新型コロナウイルス感染症は青果物を取り扱う市場にも影響を与えている。巣ごもり需要で各量販店はそこまでの落ち込みはないが、給食業務関係は需要が減少している。

魚介類

・飲食店の完全休業が以前より増えてきている気がする。

土産品

・オミクロン株の影響があり売上が大幅ダウンしている。早くお客様に戻ってきてもらいたい。

機械工具

・仕入の遅れが顕著であり、長いものだと10ヵ月以上先になるものもある。

金属製品

・メーカーの強気な姿勢は変わらないが、タイト感や受注制限は緩和されている。停滞していた建築関連も年末を迎え、若干動き出した模様だ。

自転車

・人流が少なく、商品の入荷遅れや品薄は続いており商品確保が難しい。春需は商品が足りないことが予想される。

4. 小売業

売上高  まあまあ	受注量  やや低調	受注単価  まあまあ	営業利益  まあまあ	今後3ヵ月  まあまあ
--	--	---	--	--

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
売上高	▲ 38.5	▲ 8.4	▲ 11.1	3.6	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 13.6	▲ 48.2	▲ 45.9	20.9	13.0	9.1	4.4
販売客数	▲ 53.9	▲ 20.8	▲ 18.5	▲ 10.8	▲ 4.1	▲ 20.8	▲ 13.7	▲ 44.5	▲ 50.0	8.3	13.1	0.0	▲ 4.4
販売客単価	▲ 7.7	▲ 8.3	▲ 14.8	▲ 10.7	▲ 8.4	▲ 29.2	▲ 13.7	▲ 29.6	▲ 20.9	4.2	▲ 13.1	27.3	0.0
営業利益	▲ 46.2	▲ 25.0	▲ 22.2	0.0	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 37.0	▲ 50.0	4.2	4.3	0.0	0.0
見通し	▲ 3.8	0.0	7.4	▲ 14.3	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 13.7	▲ 14.8	0.0	12.5	▲ 8.7	▲ 27.3	4.3

<経営者の目・見方・e t c>

陶磁器

・初詣の賑わいだけを見ればコロナ禍以前に近づいたが感染が急拡大し、消費行動にもブレーキがかかった。もともとあめ市が終われば春まで閑散期が続いていたが、寒さが身に染みる。感染拡大のペースは落ちつつあるので春休みや桜の開花時期には落ち着いていることを願う。

印章

・明るい兆しが見えかけていたのにまん延防止等重点措置の影響で急落した。新入社員の為の氏名ゴム印が半減されたり廃止されたりで企業のデジタル化や経費削減をひしひしと感じている。

印章・刃物研ぎ

・活動がない。

住宅機器

・4月よりまた色々なものが値上がりするようであり頭が痛い。

洋菓子店

・コロナ禍の影響もあり、インターネット販売が好調だという声を聞く。また、洋菓子業界は大部分の材料が輸入であり、様々な影響で値上げが続いている。価格の見直しや販売方法を考えなければならない。

和菓子

・オミクロン株の影響があり観光客、地元客共にあまり動いていない様子である。

生鮮食品

・年末年始共に、コロナ禍ではあるが天気も良く人出が多く昨年よりも売上が良かった。その後はオミクロン株の影響を受けてしまった。

手芸材料

・年末年始は観光客が動いていた。地元客は初旬以降の人出が減ってしまったようだ。

ギフト商品・カレンダー・うちわ

・先が見えないので夏以降の動き出しができない。

5. 飲食業

売上高	受注量	受注単価	営業利益	今後3ヵ月
				
極めて低調	極めて低調	極めて低調	極めて低調	極めて低調

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
売上高	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 57.9	▲ 18.7	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1	▲ 17.6	5.3	16.6	▲ 50.0
販売客数	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 76.5	▲ 66.7	▲ 23.5	10.5	16.6	▲ 62.5
販売客単価	▲ 66.7	▲ 81.2	▲ 31.6	▲ 37.5	▲ 56.2	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 52.9	▲ 44.4	▲ 29.4	▲ 10.5	5.5	▲ 37.5
営業利益	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7	▲ 29.4	▲ 21.0	16.6	▲ 56.2
見通し	▲ 22.2	▲ 18.8	▲ 15.8	▲ 6.3	0.0	5.0	▲ 15.0	▲ 29.4	0.0	5.9	▲ 5.2	▲ 33.3	▲ 43.8

<経営者の目・見方・e t c>

- | | |
|------|--|
| 料理 | ・新年を迎えたが、宴会もなく寒さも厳しいため人流が悪く今年もコロナ禍で営業する覚悟が必要だと感じた。 |
| 郷土料理 | ・オミクロン株が少しずつ松本市内にも出てきており、それにつれて地元客も減っていった。時短営業の要請で客足がさらに遠のいた様だ。 |
| 創作料理 | ・コロナ禍で2年が経過し、周りの動向が気になる。12月中旬以降、予約は次々にキャンセルとなりオミクロン株の影響もあり1月も予約は入るが結局キャンセルになるということが相次いだ。例年であれば2～4月は稼ぎ時であるのにもかかわらず、どうすればいいのかわからない。早くコロナ禍から抜け出し回復傾向に向かうのを待つしかないのだろうか。気が湧いてこない。 |
| そば | ・1月上旬は人出が多く賑わっていたが、オミクロン株が流行しだしてから段々と客足が減っていった。今現在かなり厳しい状況である。 |
| 寿司 | ・新型コロナウイルス感染症に誰が感染してもおかしくない状況になっている。年末年始の動きを見ていると当然の結果かもしれない。飲食店は重大な打撃を受けており、経済も大切だが危機感を持って経営するのも大切なのではないかと思う。 |
| 食堂 | ・オミクロン株の影響を受け、長野県内の新型コロナウイルス感染者が100人以上となり、順調に入っていた予約も相次いでキャンセルになり非常に残念である。
・初旬は人出が多く大変混雑したが、オミクロン株の影響がありその後は閑散としている。 |

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
売上高	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲ 15.0	▲ 17.5	▲ 20.5	▲ 7.1	▲ 2.5	0.0
販売客数	▲ 56.1	▲ 43.2	▲ 11.9	9.8	2.3	0.0	▲ 6.8	▲ 22.5	▲ 17.5	▲ 27.3	▲ 14.3	▲ 10.0	4.7
販売客単価	▲ 24.4	▲ 27.2	▲ 2.4	7.3	▲ 9.1	▲ 4.8	▲ 9.1	▲ 7.5	▲ 10.0	▲ 22.8	▲ 4.8	▲ 12.5	▲ 2.3
営業利益	▲ 53.7	▲ 40.9	▲ 14.3	2.4	▲ 4.5	▲ 9.5	▲ 15.9	▲ 22.5	▲ 20.0	▲ 20.4	▲ 7.1	▲ 10.0	▲ 4.7
見通し	▲ 12.2	4.5	▲ 2.3	▲ 17.1	▲ 2.3	14.2	▲ 18.2	▲ 7.5	10.0	▲ 13.7	▲ 7.2	▲ 17.5	▲ 20.9

<経営者の目・見方・etc>

ビル・住宅総合メンテナンス

・オミクロン株の影響が長引きそうだ。広域的に徐々に経営に影響してきそうだ。融資の返済も1年延びたが、返済はスタートする。その時の社会情勢がどうなっているか心配だ。

旅館

・1月下旬から2月にかけての予約キャンセルが多い。
・新型コロナウイルス感染症が収束しない限り先は見えてこない。

温泉旅館

・1月中旬に一気に自粛ムードになった。これから先の展望が読めない。2月はかなり悪くなると予想しており、3月までにはなんとか盛り返して欲しい。

ホテル

・松本城のレーザーマッピングが好評であり、今年は氷彫フェスティバルが行われた。

ホームクリーニング・リネンサプライ業

・オミクロン株の影響があり大ダメージを受けた。しかし、現状に悲観するだけでなく、できることにチャレンジしていきたい。

写真

・新型コロナウイルス感染症の急拡大により売上は激減した。まん延防止等重点措置によりお客様のご来店も減りスタジオ撮影が激減し、行事やイベントも中止になりいろいろなところで影響が出ている。

機械設計

・仕事量が多いが物の入りは悪いので納期を長くするしかない。長いものはいつになるかもわからない。

測量・建設コンサルタント業

・1月になれば新型コロナウイルス感染者が増えると思っていたが、想像以上にオミクロン株の感染拡大の速度が速く驚いた。緩んでいた気をしっかりと引き締め、感染対策をしっかりと行っていきたい。

測量・設計
ソフトウェア

・長野県全域での経済衰退の影響が懸念される。
・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、外部の業者がユーザー部門にまで密着して要件を吸い上げることが難しくなっている。開発のフェーズでの請負自体は堅調であるが、ユーザ企業としては内製力の有無が、外部業者としては幅広い提案力が必要である。

タクシー

・前年が非常に悪かったので今年の前年比は少し回復した。しかし月の後半の客数はかなり減ってしまった。

ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・来店数、売上高共に前年を上回った。新型コロナウイルス感染者の減少により、お正月のホテル利用が多かった。しかしオミクロン株の流行により2月以降のホテル予約数が減少傾向にある。更なる感染予防対策をしっかりと行う必要がある。
獣医	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の直接的な影響は感じないが、流行のピークには客足が減るなど、間接的に影響を受けている感じがある。従業員にもワクチンの接種を勧めている。
介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・物価上昇が進んでいる。寒さの影響もあり利用者が減少している。オミクロン株の流行もあり、感染対策を徹底していきたい。